

コード	304011901
記入日:	H22.6.17

課コード	112
課名	こども課
課長名	荒木宣貴
担当者	佐々木直子

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	児童館運営事業
----------	---------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3		
施策コード	304	施策名称	ふれあい、支えあい、助けあい、みんなで育てよう未来の宝	項コード	2		
基本事業コード	30401	基本事業名称	地域における子育ての支援	目コード	5		
事務事業コード	3040119	事務事業名称	児童館管理費	細目コード	279・280		
関連計画	次世代育成支援地域行動計画		法令・条例規則等	新上五島町児童館条例			

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	年間利用者数	(対象指標1)	7,652人				
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	児童館開設日数:245日 児童館年間利用者数:7,652人	*****	*****	*****	開館日数245日÷開館すべき日数245日	*****	
		①	開館日数	245日	100%		平成21年度
		(達成率分析)	計画通りに開館し、児童館事業を実施した。				
		*****	*****	*****	*****	*****	
		②	(達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
子育てサークル・母親クラブ・子ども会の地域活動及び児童の放課後の遊び場としての活動を行っている。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		①	*****	*****	*****	利用者数7,652人÷前年度実績数9,654人	*****
		①	利用者数	7,652人	79.3%		平成21年度
		(達成率分析)	全体的に利用者の数は減ったようであるが、乳幼児の親子の利用が増加している。				
		②	*****	*****	*****	*****	
		(達成率分析)					

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 日	1,419	1,419	1,174	245	245					
	②										
成果指標	① 人	38,272	38,272	30,620	7,652	7,652					
	②										
総事業費C(A+B)	千円	34,330	34,330	25,623	8,707	8,707					
直接事業費A	千円	28,730	28,730	21,423	7,307	7,307					
人件費B	千円	5,600	5,600	4,200	1,400	1,400					
内訳	従事職員数	人	0.8	0.8	0.6	0.2	0.2				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	34,330	34,330	25,623	8,707	8,707					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	児童に健全な遊びと健康増進の場を与える場として必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	少子化の時代に、子どもが孤立しない様遊びの場・出会いの場として必要な施設である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	児童に健全な遊びの場を与え、その健康を増進し情操を豊かにすることを目的としており適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	条例の趣旨のとおり、児童の放課後の居場所として必要な活動が行われている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	幼児期から高齢者まで活動・交流の場として利用方法を検討する。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	地域に子育て支援(児童の居場所づくり)のばがなくなることにより、福祉機能が低下する。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	現在のところ、同地域で同様の事業を行っていない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	適切な児童館運営において、これ以上の削減はできない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	最小の人員で実施しているため、削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	場を提供するもので、利用料は無料である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画見直しの必要性はない。
		有効性	乳幼児から高齢者まで活動・交流の場として利用方法を検討する。
		効率性	現制度の実施方法で良いと思うが、地域のボランティアサポーターの育成が必要である。
		課題に向けた改善策	特になし
改善策	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	引き続き児童館利用の利便性を高めるとともに、維持・管理に努めること。
		効率性	経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
			事業費を見直して事業を継続					事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。